

# 演習 政治のための実証分析入門

小浜祥子 (Shoko KOHAMA)

## 授業概要

政治現象を理解し、政治的な問題を解決するためには、物事の間接関係をよく理解する必要があります。例えば、貧困が人びとをテロリズムへと駆り立てるのでしょうか？同盟は国をより安全にするのでしょうか？このように私たちの安全や福祉にかかわる問題を、安直な勘やイデオロギーによって論じるのは無責任な態度であり、社会に害悪をもたらすことすらあります。そこで、本演習では事物の間接関係を分析するための実践的な方法、とりわけ観察データを分析する手法を身に付けることを目標とします。授業では、統計分析の基礎的な考え方を理解し、無料の統計分析ソフトウェアである R を用いて、学生自身が簡単な分析を行えるようになることを目指します。なお、この授業では統計学の理論よりも統計分析の政治現象を重視するため、政治現象をより深く理解できるようになることが目標です。

## 到達目標

1. 統計分析の考え方に親しむ。
2. 統計分析と政治現象への応用について基礎的な知識を獲得する。
3. R を使えるようになる。
4. 統計分析を行い、その結果を正確に解釈できるようになる。

## 課題と成績評価

最終的な成績は以下の4つの要件を加味して決定する。

- 出席：演習形式のゼミのため、毎回の授業への出席は必須です。やむを得ない事情で欠席する際には、授業開始前までに担当教員へ連絡してください。三回以上欠席した場合、単位の取得はできません。
- 課題（70%）：隔週程度で課題を提出してもらいます。
- 授業への参加（30%）

## その他のポリシー

- スマートフォン話等はマナーモードにすること。
- 課題等の提出物は提出者自身が作成したオリジナルなものでなくてはなりません。書籍やWeb上の他人の文章、研究成果及びアイデアを剽窃し、レポートとして提出することは許されません。課題についてスタディ・グループを設けることは奨励しますが、最終的な提出物は提出者自身が作成しなければなりません。他の学生の答案を「丸写し」で提出した場合、両者ともを処罰の対象とします。
- クラスメイトの意見や多様な価値観を尊重すること。

## 教科書および参考図書

- 教科書：金明哲編、飯田健著『Rで学ぶデータサイエンスー計量政治分析』（共立出版、2013）
- 参考図書
  1. 浅野正彦・矢内勇生『Rによる計量政治学』（旺文社、2018年）
  2. 今井耕介著、粕谷祐子他訳『社会科学のためのデータ分析入門』（岩波書店、2018年）

## R

統計分析にはRを用います。Rは統計数理研究所（ISM）のミラーサイト（<https://cran.ism.ac.jp/>）から無料でダウンロードおよびインストールすることができます。またRを使うときには、RStudioと呼ばれる環境（<https://www.rstudio.com/>）を使う方が分かりやすいです。こちらも無料で利用できます。

## コミュニケーション・ツール

授業外でのコミュニケーションにはFleepというアプリケーションを用います。各自、下記のURLからF「小浜演習2019」への登録を行ってください。

<https://fleep.io/chat/hBtHbXFaRvedsHcnt3euwg>

## オフィスアワー

オフィスアワーは毎週火曜 13:30 から 14:30（もしくはアポイントメントによる）まで、小浜研究室（法学部 508 号室）にて。

## 授業日程

- 4月10日 ガイダンス
- 4月17日 政治学における計量分析
- 4月24日 記述統計とRの使い方
- 5月08日 統計的推測の考え方
- 5月15日 統計的推測の考え方
- 5月22日 回帰分析 1
- 5月29日 回帰分析 2
- 6月05日 重回帰分析 1
- 6月12日 重回帰分析 2
- 6月19日 分析後の診断と頑強性
- 6月26日 パネルデータ分析 1
- 7月03日 パネルデータ分析 2
- 7月10日 ロジット分析 1
- 7月17日 ロジット分析 2
- 7月24日 まとめ

※このシラバスは予告なく変更されることがあります。